

(4) 実践事例

ア A校第2学年の授業の実際〔授業の質的改善のプロセス（A校の実践）-1の10月の実践〕  
「近畿地方」（本時5/5）

本時に取り入れる教師の手立て




- ・自分の考えをまとめる場を設定するとともに、ワークシートに合わせた書き方やキーワードに沿って、根拠となる資料を示してまとめるように促す。【C②③】
- ・単元の学習を振り返らせ、単元を貫く学習課題に対する自分の考えを整理しながらまとめるように促す。【C④】

本時の目標

歴史的景観を構成する建築物等に住民の生活を通して、環境問題や環境保全に対して多面的・多角的に考察し、歴史的景観を保全するための取組を考案している。 【社会的な思考・判断・表現】

本時の授業の様子

.....質的改善を図った手立て

学習活動	教師の働き掛け（○）と評価【】
1 本時の学習内容の見通しをもつ。	○単元を貫く学習課題「これから環境問題をどう解決したらよ いだろうか」を確認し、本時のめあてと授業の流れを電子黒 板に提示することで、本時の学習内容を確認できるようにし た。
【めあて】歴史的景観を守っていくための手立てを考えよう	
2 写真を比較して、気付いたことや 読み取れることを発表する。  ・電柱の地中化 ・京都市内のコンビニエンスストア	○2枚の写真を電子黒板に提示し、 生徒が気付いたことに対して問い 返すことで、本時の学習内容に対 する興味・関心を高めた。
 【2枚の写真を比較】	
3 電柱を地中化させる理由とコンビニ エンスストアの色が違う理由を考 える。	○「京都市はどのような特色をもった都市だった？」など、京 都市の地域的特色について問い掛けながら、歴史的景観を保 護する取組に気付くように促した。
 【神埼市の景観】	
4 写真を見て、神埼市にも歴史的景 観があることを知る。	○神埼市に見られる歴史的景観を電 子黒板で提示することで、歴史的景観を 身近なものと感じられるようにした。
5 グループで話し合い、神埼市に見 られる歴史的景観の写真から、歴史 的景観を守っていくための取組を考 案する。	○環境問題や環境保全に対して多面的・多角的に考察できるよ う、以下の考えるポイントを掲示し、そのポイントを視点と して話し合うように伝えた。 【評価】
 【取組を考案している様子】	
・住民の利便性（便利さ） ・行政（区市町村）、企業、個人としてできること ・歴史的景観の活用法	

<p>6 グループの意見を発表する。</p> <p>7 単元の学習を振り返り、単元を貫く学習課題について考える。</p>	<p>○文章表現を行う場を設定するとともに、ワークシートに合わせた書き方やキーワードに沿って、根拠となる資料を示してまとめるように促した。【C②③】</p> <p>○代表者の意見を全体で共有することで、自分の考えを深めることができるようにした。</p> <p>○単元の学習を振り返らせ、単元を貫く学習課題に対する自分の考えを整理しながらまとめるように促した。【C④】</p>
--	---

## 本時の授業の評価規準の考察

評価規準	歴史的景観を構成する建築物等に住む人々の生活を通して、環境問題や環境保全に対して多面的・多角的に考察し、歴史的景観を保全するための取組を考案している。 【社会的な思考・判断・表現】		
判断する目安 (判定基準)	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況(C)
	○(B)に加え、住民の利便性や観光資源としての役割を踏まえて、取組を考案している。	○環境問題や環境保全に対して行政・企業・住民の立場を踏まえて、自分なりに歴史的景観を保全するための取組を考案している。	(B)に達していない状況
→(B)、(C)と判断した生徒への支援		→一般的な取組を考案することができる生徒には、住民の利便性や観光資源としての役割にも着目させる。	→取組を考案できない生徒には、考えるポイントを確認させ、話し合ったことを整理させる。
評価方法	ワークシートの記述		

本時の評価規準「歴史的景観を構成する建築物等に住む人々の生活を通して、環境問題や環境保全に対して多面的・多角的に考察し、歴史的景観を保全するための取組を考案している」についてA評価の生徒が22人、B評価の生徒が10人でした。A評価の生徒は、3つ以上の様々な立場からの現実的な内容を含む取組が考案できており、B評価の生徒は2つ以上の取組が考案できていました。チェックリストC②③の手立てを取り入れ、ワークシートに合わせた書き方やキーワードに沿って、根拠となる資料を示したことで、それぞれのグループでの考えと意見交換を基に課題に対する自分の考えを発展させ、様々な立場から身近な地域の景観保全について考察することができていました。また、内容に関しても、歴史的景観を活用しながら保存していく方法を考えたり、補助金を出すにしてもその補助金をどうやって捻出するのか考えたりしており、多面的・多角的に保存していく方法の考察ができていました。このような多面的・多角的な考察を促したのもグループでの話し合い活動があったことが要因であると感じました。考案に困っていた生徒も他の生徒と意見を交換していく中で考えが広がったり深まったりして、様々なアイデアを出す姿が見られました。課題としては、多くの生徒が実現させることができるかもしれない内容の考察を行っていたのに対して、非現実的な保存方法に終始したグループがあったことです。他のグループの発表を聞いた後に、自分の考察を更に深める場面設定があれば、より現実的な内容を考案できたと考えられます。

**本時の成果と課題（○成果、●課題）**

(1) 取り入れた教師の手立てが、生徒の「主体的・対話的で深い学び」につながっていたか。

- 授業の課題把握の場面において、電子黒板を使って写真の比較をさせたことにより、生徒の興味・関心を高め、主体的に学ぼうとする意欲につながることができました。
- グループでの考察の場面において、考察のポイントを示したことにより、話し合いが多面的・多角的な考察を伴うものになりました。
- 他グループの発表を聞かせ、その後教師がフォローしたことで課題についての考えを深めることができました。
- より身近な例を取り上げたことにより、自分たちの生活環境に照らし合わせて考察することができ、より主体的な考察につながりました。
- 振り返りの場面で、環境問題全般について環境改善の大切さを考察させたことにより、単元を貫く学習課題に迫ることができました。
- グループでの発表にとどまったので、意見の共有後に個人での考察場面を設定することで、より考えが深まるのではないかと感じました。

(2) 教師の手立てが、生徒の資質・能力（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）の育成につながっていたか。

- 近畿地方の単元を貫く学習課題「これからどう環境問題を解決していくか」について、より身近な地域社会の問題について取り入れていったことで、環境問題をより身近な問題として捉えることができ、「学びに向かう力、人間性等」の育成につながっていると感じました。
- 環境問題や環境保全に対して多面的・多角的に考察できるよう、考えるポイントを掲示したことによってグループ活動の際、自分の考えを他の生徒に伝えることができ、「思考力、判断力、表現力等」の育成につながっていると感じました。
- 学習課題について考察する場面は多かったのですが、「知識及び技能」を定着させるための活動を取り入れる必要があると感じました。